

ターゲット・バードゴルフ競技規則

【第1章】コース

第1条 競技は、日本ターゲット・バードゴルフ協会の公認コースで行う。

公認基準は、以下のとおりとする。

	公認常設コース	公認仮設コース
ホール数	9ホールまたは18ホールを標準とする	常設コースに準ずる
ホール距離	パー3（ショートホール） 30ヤード～50ヤード パー4（ミドルホール） 45ヤード～70ヤード パー5（ロングホール） 60ヤード～90ヤード	パー2（ショートホール） 15ヤード～30ヤード パー3（ミドルホール） 30ヤード～50ヤード パー4（ロングホール） 45ヤード～70ヤード 常設コースと同じ設定もよい
パー総数	9ホールのパー総数は36とし、その内訳は、パー3が2ホール、パー4が5ホール、パー5が2ホールとする	9ホールのパー総数は27とし、その内訳は、パー2が2ホール、パー3が5ホール、パー4が2ホールとする
面積	9ホールにつき7,000㎡以上で全長600メートル以上とする	9ホールにつき5,000㎡以上で全長400メートル以上とする
ティーインググラウンド	台地状（3ヤード四方）もしくは、周りのフェアウェイと区画線、柵等	3ヤード四方を区画線または柵等でつきり区別し、ティーマークを設

	ではっきり区別をし、ティーマークを設置する	置する
フェアウェイ	芝とする 幅は6 釐以内とする	芝または土とする 幅は6 釐以内とする
境界線	コースは溝の中に砂を入れて区分するか、煉瓦で区分するか、細紐を用いて明確に区分する	コースは細紐で区分する
バンカーノ ウォーターガード	9 ホールにつき、いずれか2 種類以上設置しなければならない	設置しなくてもよい
標 識	危険防止のための注意書きおよび距離の表示等プレーに必要な表示をする	常設コースと同じが望ましい
公認指導者	9 ホールにつき1 名以上が常駐	9 ホールにつき1 名以上が立ち会う
主な用途	日本T B G協会公認大会、講習会の開催	講習会、その他

【第2章】用具

第2条 ボール

ゴルフボールにバドミントンの羽根がついた形状とする。合成樹脂製で、ボールと羽根のジョイントにはビスを用いる。

全長105mm、ボールの直径約40mm、羽根の直径約65mm、重量30g以下とする。

羽根は飛距離を抑える働きをし、羽根についたヒレは方向性の安定と転がりを抑制している。

第3条 クラブ

日本T B G協会の公認クラブまたは、一般ゴルフ用ウェッジクラブ 1 本のみを用いる。クラブの改造は認められない。

公認大会は、原則として日本T B G協会の公認クラブもしくは、ウェッジクラブを使用する。

第4条 ショットマット

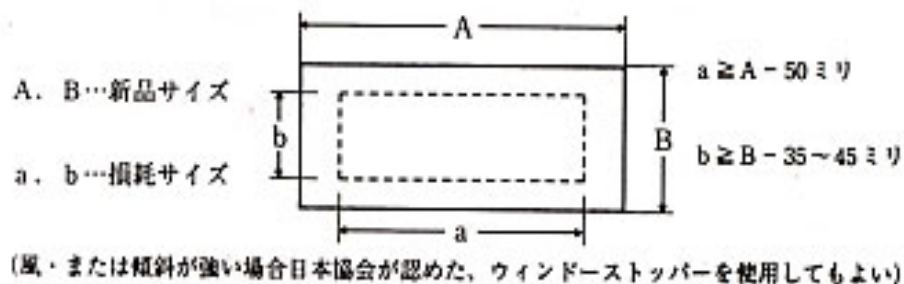
ゴルフ練習用ショットマットを使用するが、毛足の長さは一定で、2cm 以下でなければならない。競技会においては、センターに線が入っているものを使用しなければならない。

マットを使用する時は、地面に平らに置かなければならないし、マットの裏側を使用してはならない。

マットを改造してはならない。(曲げたり、把手をつけるなど)

強風の時や、ショット地点の傾斜が強くボールをセットできないときは、日本協会が認めたストッパーを使用してもよい。

図1



第5条 ホール

上部ホールをアドバンテージホール、下部ホールをセカンドホールと呼ぶ。

アドバンテージホールは、パラソル(傘)を逆さにして立てた形、セカンドホールは、フープ(輪)を地面においたものとする。アドバンテージホールの直径は、約 110cm。セカンドホールの直径は、約 86cm。アドバンテージホールは、ステンレス枠にネットを張ったもので、先端を地面に打ち込んで使用する。地面に打ち込めない場合は、自立式のホール台座を使用する。セカンドホールは、合成樹脂製のフープとする。

アドバンテージホールは、ネット支柱(ネットの底部)を地面より 20cm の高さに設置する。

プレーヤーは、アドバンテージホール並びにセカンドホールに触れてはならない。

ホールは、日本T B G協会が公認したものを使用する。

【第3章】競技規則

第6条 人数

通常4人1組でプレーする。

第7条 方法

第1項 進め方

スターティングホールでのティーショット(第1打)は、くじ引き、じゃんけん、コインのトスによって順番を決める。

ボールがインプレーの時は、ホールから最も遠いボールを先にプレーしなければならない。(遠球先打)

もし、2つ以上のボールがホールから等距離にある場合は、先にプレーするボールをくじ引き等で決める。

2ホール目以降のティーショットの順番は、前のホールで最も少ないスコアのプレーヤーからプレーし、以下順番にプレーする。

もし、前のホールで2人以上のプレーヤーが同じスコアであった場合は、前のホールのティーショットの順番に従う。

プレーヤーが、プレーの順番をうっかり間違えてプレーしても罰はなくボールが止まっているところから次のプレーをする。

第2項 ストローク

ボールを正しく打ち、またボールを打つ意志でクラブを前方に動かすことをストロークという。

つまりボールを打つ意志でクラブを振れば、空振りであっても1ストロークと数える。

ただし、クラブヘッドがボールに触れる前に何かの理由で、スイングを中止したときは、ストロークを行わなかったものとみなす。

ボールはクラブヘッドで正しく打たなければならない。

押し出したり、かき寄せたり、あるいはすくい上げてはならない。

以上の反則があったときは、2罰打が与えられる。

プレーヤーのクラブが、1ストローク中に2回以上ボールに当たったとき(2度打ち)は、そのストロークが1打、そして1罰打が与えられ、合計2打として数える。

第3項 ホールイン

1. 打数

ホールインとは、ホールの羽根部分を除く球状部分が、ホールの内側に停止した状態をいう。

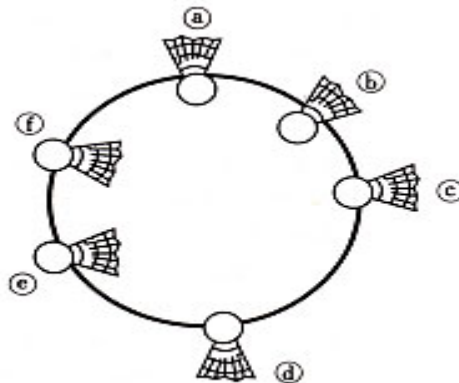
ホールインの判定は、ボールを真上から見下ろして行う。

アドバンテージホールはステンレス製の枠、セカンドホールは合成樹脂製のフープでそれぞれ幅をもっている。従ってホールインの判定は、それぞれ内側のラインで行う。

もし、内側ライン上にボールが制止したときは、ボールの羽根部分を除く球状部分の半分以上がボールの内側にあればホールインとなる。

ホールインした場合は、次のように計算し採点する。

図2 セカンドホールの判定



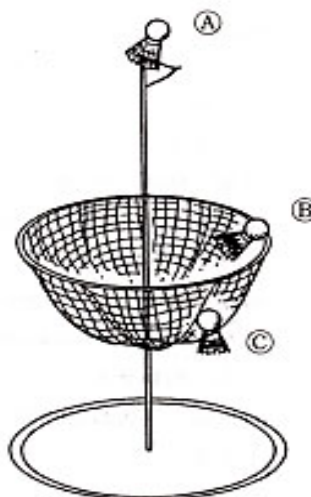
アドバンテージ

・ストローク数

セカンドホールにホールイン・・・ストローク数プラス1打

2. 特例

図3 アドバンテージホールの判定



旗あるいは旗竿、アドバンテージホールの外フレームにボールが停止したときは、アドバンテージホールに入ったものとみなす。Ⓐ Ⓑ

セカンドホールの内側ラインにボールの球状部分が半分以上かかっておればホールインとみなす。Ⓐ Ⓑ Ⓒ

ボールがアドバンテージホールの外側ネットに引っかかったときは、セカンドホールに入ったものとみなす。Ⓒ

セカンドホールにボールの球状部分が半分以上外にあたり、接している場合は、ホールインとはならない。Ⓓ Ⓔ Ⓕ

第4項 アウト・オブ・バウンズ

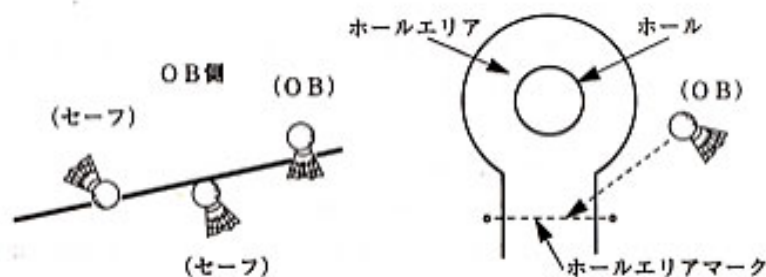
アウト・オブ・バウンズ（OB）とは、プレーが禁止されている区域のことをいう。

OBの境界線は、常設コースの場合は溝または煉瓦、細紐で標示し、仮設コースの場合は細紐で標示する。

溝または煉瓦部分にボールの球状部分が入っている場合及び細紐にボールの球状部が少しでも触れている場合はセーフとなる。

ボールエリアでのOBについては、すべてボールエリアマークの外側から打ち直す。

図4



第5項 ボールがOBとなったときの処置

コンパス方式

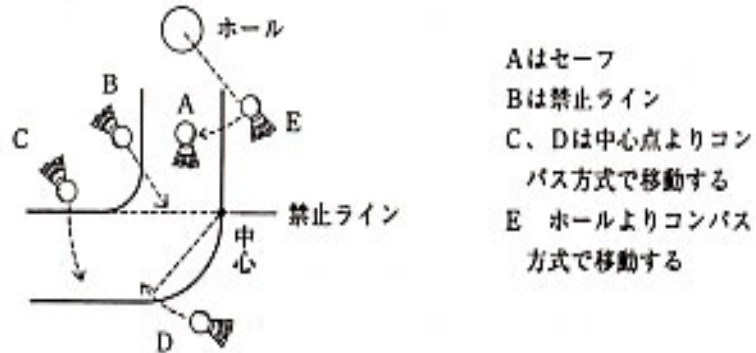
ボールがOBとなった場合は、1 罰打付加してホールに近寄らないコース内地点に戻し、次のストロークを行う。結果としてボールを中心とした円周上のコース内地点に戻すことになる。

特例

コースが極端なドッグレッグ（80° 以上）している場合は、コース状況を

考慮してローカルルールを定めて競技することが望ましい。

図 5 例



OBライン付近でのマット使用は、OBラインが煉瓦等で危険を伴う場合は、ホールに近づかない範囲でコース内に入れてプレーすることができる。
ボールがプレーができない池やハザードに入った場合は、手前に戻って1罰打付加して次のプレー（3打目）を行う。

第6項 バンカー

バンカー内では、ショットマットは使用できない。

バンカー内でクラブを砂に接触させた場合は、1罰打となる。ただし、故意に接触したのではないことをパートナーが認めた場合は、ノーペナルティーとなる。

第7項 プレース

プレースとは、ボールを拾い上げて、「別の地点」に置くことをいい、規定の方法に従えばペナルティーはない。

また、動物などにより、ボールが持ち去られるなどした場合は、そのボールがあった地点に別のボールを置くことができ、これもプレースという。

以下の方法に従えば、自由にプレースすることができる。この時、羽根の向きを変えてプレースしてもかまわない。

1) ショットマットを使用する場合

ボールの真後ろにしかもボールに接するようにショットマットを置く。

ボールを拾い上げる。

ショットマットの最前方にボールを置く。

2) ショットマットを使用しない場合

次のショットをする時は、マークをせずボールを拾い上げてボールの向きを変えてもよい。ただし、拾い上げた後でボールの位置関係が不明になる恐れがある場合はマークすべきである。

バンカー内のボールの向きは球体部を中心にして羽根の向きを変える。

3) 下記のような場合は6インチ(15cm)の範囲内で、しかもホールに近寄らない「別の地点」にボールを置くことができる。

ボールがOBラインに接した場合で、プレースによりボールがOBライン外になるとき。

バンカー等の縁でボールが止まり、ボール直後にショットマットが置けない場合、6インチとは無関係に後方にプレースできる。

6インチプレース適用をみだりに利用しない。

4) その他のプレース

ティーショットの失敗によりボールがティーインググラウンド上に残ったり、フェアウェイに届かなかった場合は、ティーショットをやり直すことができる。その場合1罰打を加え、3打目のスタートとなる。

ボールがOBになった場合のプレース手順は、コンパス方式によってマットの位置を決め、ホールに向けてセットする。OBになったボールを拾い上げてマットの先端に置く。

第8項 リプレース

リプレースとは、拾い上げた、または動かされたボールを「あった地点」に戻して置くことをいう。

ボールを識別するため、あるいは他のプレーヤーの妨げとなるため、などの理由で、リプレースすべきボールを拾い上げたときはマーカーを使ってマークしなければならない。

マーカーには小さな硬貨などを用いる。

第8条 競技の種類

1. ストロークプレー

正規のラウンドを正しい順序でプレーし、最少打数でプレーした者が優勝者となる。「グロススコア(正味スコア)」で順位を決める競技(スクラッチ競技)と「ネットスコア(ハンディキャップを引いたスコア)」で決める競技(ハンディキャップ競技)がある。

2 . マッチプレー

各ホール毎に勝敗を決める。

各ホールの勝敗は、反則のあった場合を除き、ストローク数によって決める。
ハンディキャップを導入することもある。

3 . ツーボールフォアサム

2人が組になり他の2人組と対抗する競技で、各サイドが1個のボールを交互にプレーする。ティーショットは1ホール毎に組んだプレーヤーと交替して打つ。また、ティーショットに限り、全員が打ち、各組が良い方のボールを選び、その後は交互にプレーする方法でも良い。

4 . フォアボール

2人対2人が各自のボールをプレーして対抗し、各サイドのベストスコアによって勝敗を競う。

【第4章】エチケットとマナー

- 1 . プレーヤーは、ストロークを行う前に、クラブが当たる可能性のあるところに、人がいないことを確認しなければならない。
- 2 . プレーヤーがストロークを行うときには、他の者は動いたり、大声で話してはならない。また、ティーインググラウンドにはティーショットする者以外は立ち入ってはならない。
- 3 . プレーヤーは、前の組のプレーヤーがボールのとどく範囲外に進むまで、プレーしてはならない。
- 4 . プレーヤーは、ホールアウト後、速やかにそのホールから離れなければならない。
- 5 . 使用するボールに自分の印を付けておくとよい。各自のボールを色によって確認しておく。

簡易的な遊び方

ターゲット・バードゴルフはゴルフのピッチングウェッジ1本でラウンドしますが、フルセットで楽しむことも出来ます。ピッチングウェッジの飛距離は20メートル、ドライバーの飛距離は、30メートル程度ですので、通常のゴルフほど、ドライバーのメリットはありません。ターゲット・バードゴルフは、飛距離よりはむしろ確実性が重要視されます。

そこで、ティーショットに限り、ドライバーで打たなければならないというルールに変更し、ドライバーとピッチングウェッジ2本でプレーするのも面白いでしょう。

やはり、ドライバーの豪快なショットも楽しいものです。ドライバーでボールを打つ時は、ティにボールを乗せ、羽根を上に向けるようにします。この場合、上からボールを見ると、羽根に球状部分が隠れて見えません。なんとなく打ちにくく感じるプレーヤーは、ティにボールを乗せ、羽根を打球方向に傾けるようにすると良いでしょう。もし、専用ホールがなければ、普通の傘を逆さまにして代用すれば良いでしょう。何も無い時は、地面に二重の円を描き、内側をアドバンテージホール、外側をセカンドホールと見なします。ショットマットが無い時は、写真のフィルムケースの蓋部分をティの代用とすると打ちやすいでしょう。小さくてポケットに入るので便利です。

いずれにしても、正式なゲームとしては認められないので注意してください。